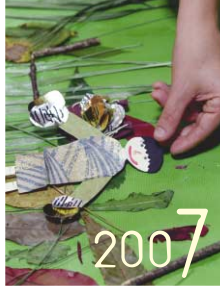




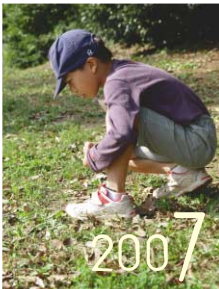
cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



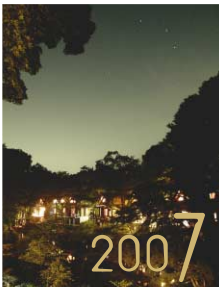
cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



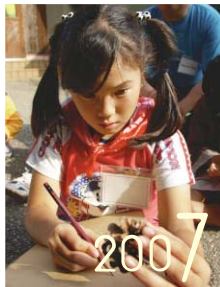
cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



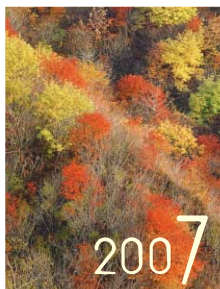
cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



cosmo oil co.,Ltd.



# コスモ石油の 社会貢献活動のあゆみ

コスモ石油は、1992年に「社会貢献活動の基本方針(4ページ参照)」を定め、全社的に社会貢献活動への取り組みを始めました。1993年に、交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を主催するとともに、社員ボランティアの育成に着手しました。また、2002年には、お客様とともに温暖化防止や子どもの環境教育支援に取り組むプロジェクトとして、「コスモ石油エコカード基金」による活動を開始しました。今後も、社員の社会貢献マインドの醸成に努めるとともに、お客様をはじめNPOや支援先などステークホルダーとのネットワークを拡大することで、活動の質の向上やフィールドの拡大を図っていきます。

明日のために、今日はじめよう。  
平和で健全な社会をつくるために、  
コスモ石油は行動しています。

企業が発展していくためには、企業責任を果たすことはもちろん、社会が平和で健全であること、地球環境が保全されていることが、その前提条件になります。コスモ石油の使命は、石油などのエネルギーを社会に安定供給することです。しかし、ガソリンなどをつくるときに、またお客様が使用するとき、環境に大きな負荷をかけていることも事実です。コスモ石油は、地球と人間と社会との共生を基盤に、持続可能な発展に向けて、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全」、そして「平和で豊かな文化的社会の構築」をコンセプトに、社内外に働きかけ、社会貢献活動に取り組んでいます。

## Contents

P03-04	ごあいさつ / 経営理念
P05-12	子ども・環境・社会をテーマにした活動
P13-14	コスモ石油エコカード基金による活動
P15-16	環境メッセージの発信
P17	芸術・文化活動支援 / その他の活動
P18	外部からの評価

### 子ども・環境・社会をテーマにした活動

1993   1994   1995   1996   1997   1998   1999   2000   2001   2002   2003   2004   2005   2006   2007	Contents 目次
1993 ~ コスモわくわく探検隊	06頁
2002 ~ 子どものための自然アートワークショップ	07頁
2002 ~ 小学生向け「地球環境ブック」	10頁
2003 ~ クリスマスカード・プロジェクト	08頁
2003 ~ Webコスモ子ども地球塾「エコネッツ」	10頁
2004 ~ コスモ絵かきず	09頁
2005 ~ コース・フィランソロピー	10頁
2006 ~ パパとキッズのアートプログラム	11頁

### コスモ石油エコカード基金による活動

2001 ~ 熱帯雨林保全プロジェクト	14頁
2002 ~ 南太平洋諸国支援プロジェクト	14頁
2002 ~ シルクロード緑化プロジェクト	14頁
2002 ~ 循環型農業支援プロジェクト	14頁
2002 ~ 学校的环境教育支援プロジェクト	14頁
2003 ~ 環境学校支援プロジェクト	14頁
2005 ~ 秦嶺山脈森林・生態系回復プロジェクト	14頁
2005 ~ 参加型 総合学習・環境教育サイト EEkids	14頁
2006 ~ 植林のための苗木供給基地プロジェクト	14頁

### 環境メッセージの発信

1995 ~ コスモ アースコンシャス アクト アースデー・コンサート	15頁
2001 ~ コスモ アースコンシャス アクト ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」	15頁
2001 ~ コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン	16頁
2002 ~ コスモ アースコンシャス アクト 野口 健 講演会	15頁
2003 ~ コスモ石油 Voice of the earth	16頁
2004 ~ 環境文化誌「TERRE」	16頁
2004 ~ インターネットムービー&DVD「野口 健 小笠原環境学校」	16頁



社員一人ひとりが、  
社会貢献マインドを持った  
企業をめざします。

コスモ石油は、私が社長に就任した2004年から「CSR経営」を重要な課題として取り組んできました。私たちは、社会から信頼される誠実な企業経営を実践する一方で、社会に利益を還元することで「社会から期待される新たな企業価値」を創造していこうとしています。そのためには、「当たり前なことは当たり前やる」「やってはいけないことはやらない」を、社員一人ひとりが自覚する必要があります。なぜなら、CSR経営を推進するのは会社ですが、それを実践するのは一人ひとりの社員だからです。

私は一昨年、富士山の清掃登山に初めて参加しましたが、富士山はひどい状態でした。これがきっかけで、今では毎朝の散歩でも、道路のゴミが気になるようになりました。こういうことは、体験しないと分からないことが多いのです。また、仕事を離れ社会貢献活動することで、会社がどう見られているかを知り、さまざまなステークホルダーの存在を再認識する機会になります。ステークホルダーの顔が見えることで、その信頼を裏切ることなく誠実に対峙していく決意を持つことが社員としてCSRを実践する一歩となります。

コスモ石油では、1993年から継続している「コスモわくわく探検隊」をはじめ、社員ボランティアが参加する社会貢献活動を展開しています。こういった活動への参加を通じて、社員一人ひとりの社会貢献マインドを醸成することで、本当のCSR経営が実現できます。コスモ石油グループの社員は全国でおよそ3,400人、そしてコスモ系列のサービスステーションはおよそ4,400カ所あります(2007年1月現在)。私たちは、企業として責任を果たし、広く社会に貢献するために、一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業でありたいと考えています。

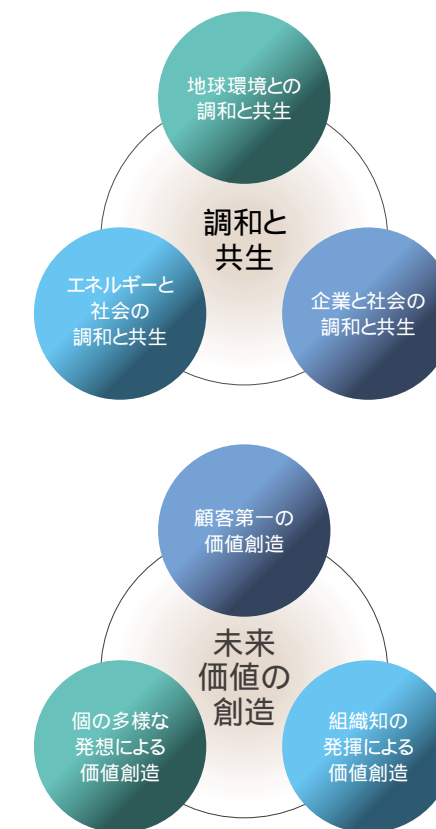
コスモ石油は、2007年度から「ボランティア休暇制度」を導入します。同時に、社員が参加しやすい社会貢献活動を全国各地で展開することで、全事業所の社員一人ひとりが積極的に地域社会に貢献していきます。

コスモ石油株式会社 代表取締役社長  
木村 彌一



## コスモ石油グループ経営理念

わたしたちは、  
地球と人間と社会の調和と共生を図り、  
無限に広がる未来に向けての  
持続的発展をめざします。



## 社会貢献活動のコンセプト

未来の社会をつくる子どもたちの啓発  
人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全  
平和で心豊かな文化的社会の構築

## 社会貢献活動の基本方針 (1992年制定)

コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う  
社員が参加して活動する  
経営状況に左右されず長期継続する



## 子ども・環境・社会を テーマにした活動

子どもたち、そして社員の  
社会貢献マインドを醸成する活動です。  
活動の経緯と広がりについて、ご説明します。

「主催」と「社員参加」を  
キーワードに活動開始。

コスモ石油は1993年に、初めての社会貢献プログラムとして「コスモわくわく探検隊」の主催を開始しました。コスモ石油が主体となって、NPOの協力のもとにプログラムを企画・運営するとともに、社員の参加を促すことで、子ども向けプログラムづくりのノウハウが蓄積されました。「コスモわくわく探検隊」で、ボランティア活動のノウハウを学んだ社員は、現在200名以上。2002年にスタートした「子どものための自然アートワークショップ」をはじめ、活動の場を広げ、コスモ石油の社会貢献活動を支援しています。

継続的な活動で、  
社員が社会に  
対応する力を醸成。

コスモ石油は、「コスモわくわく探検隊」をはじめとするプログラムを継続的に実施してきました。継続的に活動を行うことで、理解や認知が高まり、社内外に社会貢献マインドが醸成されます。さらに、継続的な活動を通じて得たノウハウや人材、外部とのネットワークを基盤に、新たなプログラムを拡充することが可能になります。これまでの活動で得た経験とネットワークをもとに、2004年には、社員ボランティアが中心となって社会問題に対応する活動「コスモ絵かきっず」を開始しました。

活動を拡充し、  
子どもたちの生きる力と  
社会貢献マインド醸成へ。

コスモ石油の活動は、環境をテーマとした活動から、幅広い社会問題をテーマにした活動へと広がってきました。子どもたちの社会貢献マインドを醸成する活動として、2003年には「クリスマスカード・プロジェクト」が生まれました。これがもとになって2005年には、自分の意志や発想で社会貢献できる子どもを育成する「ユース・フィランソビー（子どものための社会貢献教育プログラム）」を開始しました。



火起こし、野外料理、  
ドラム缶風呂など  
「森の生活」を体験しました



## 1993~ コスモ子ども地球塾 第14回 コスモわくわく探検隊

交通遺児を対象にした自然体験プログラムです。  
「ぼくたちの森の生活を作ってみよう!! 楽しもう!!」  
をテーマに、自然豊かな森の中でプログラムを  
展開しました。

コスモ石油は、クルマ社会と深いつながりを持っています。社員ボランティアが中心となって、交通遺児の小学生を対象とした2泊3日の自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を継続的に実施しています。2006年度は、埼玉県青少年総合野外活動センター・彩の国グリーンビレッジを舞台に、37名の児童が自然観察や薪割り、火起こし、バケツリレーによる水汲み、ドラム缶風呂などの「森の生活」を楽しみ、チームワークの大切さを学びました。

### ● 実施までのプロセス ●

2005年11月、2006年1月と現地を見に行き、開催地を決定。インターネット掲示板で社員ボランティアを募集し、5月には17名のスタッフが決定しました。6月にはスタッフ全員が集合し、2泊3日の研修で本番と同じスケジュールをこなしながら、安全健康管理や子どもたちの心のケアについて学習しました。その後、本番までの間にスタッフはメールや電話で情報を共有し、プログラムの内容確認や事前準備を行いました。本番前夜に最後の事前確認ミーティングを実施しました。

### ● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPOアースコンシャス、オフィスジェイアイ  
プロジェクト開始時期：2005年11月  
開催場所：埼玉県立青少年総合野外活動センター  
彩の国グリーンビレッジ  
開催日：2006年7月27日～29日（2泊3日）  
参加者：交通遺児の小学生37名、コスモ石油の社員ボランティア17名  
社外サポートスタッフ11名

### 参加児童の保護者の声

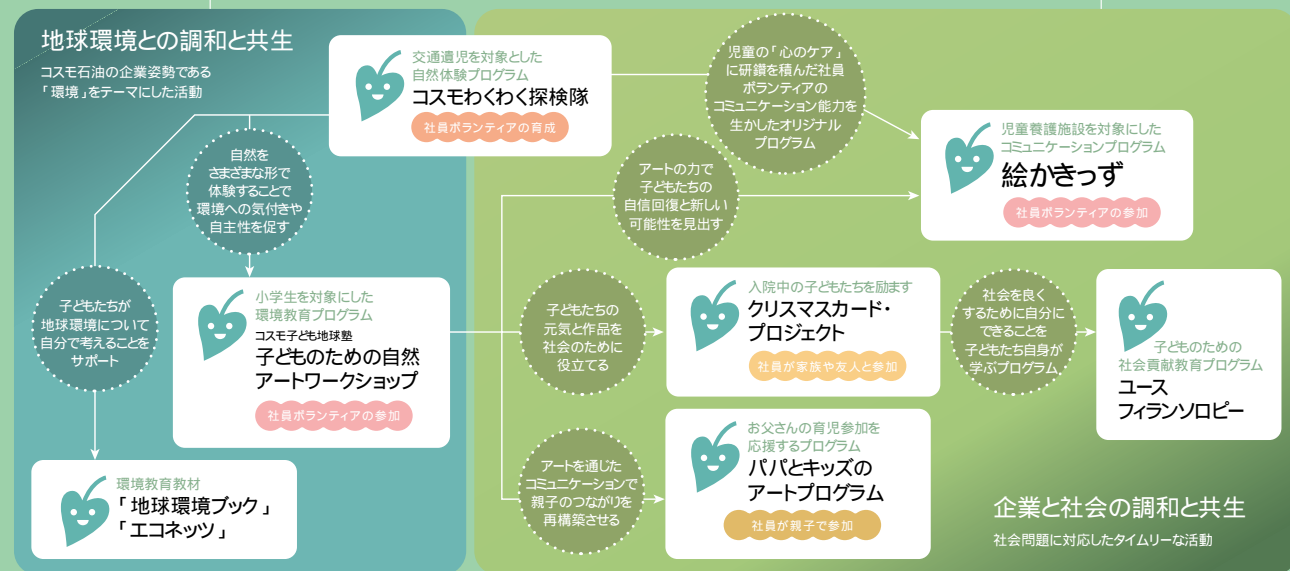
- 🐼 わく探から戻ってから、積極的にお手伝いをしてくれるようになりました。
- 🐼 「一人で」を経験して、一歩が踏み出せなかった子の表情に変化が出て驚いた。生き生きとして、多くの人と交わる楽しさや欲求が引き出されたよう。
- 🐼 来年も参加したい!!と言うのがお決まりのセリフでしたが、今年は最後となってしまい、家に着くまで泣いていました。スタッフの方々への感謝の気持ちを忘れないようにと、子どもとも向き合って話す時間を持てました。

社員スタッフの事前現地研修



### 子ども・環境・社会をテーマにした活動の広がり

活動を通じた社員ボランティアの育成により、活動のフィールドを拡大するとともに、社内外での社会貢献マインドの醸成を図っています。





2002~  
コスモ子ども地球塾  
第5回  
子どものための  
自然アートワークショップ  
～地球シネマ～

フィンランドの映像作家マイキ・カントーラさんと子どもたちが、自然と環境をテーマにしたアニメーションを制作しました。

四季の自然の中で、「見る・感じる・学習する」体験を通じて、子どもたちに自然への気づきをうながし、自らが行動する機会のきっかけとなるようなプログラムを提供しています。2006年度は、教育先進国フィンランドから若手女性映像作家のマイキ・カントーラさんをお迎えし、千葉県船橋市のふなばしアンデルセン公園子ども美術館において開催。自然探索をしながら素材を集め、自然と環境をテーマにしたアニメーション映画を制作しました。

● 実施までのプロセス ●

2005年度から協賛を始めた大阪ヨーロッパ映画祭「キンダーフィルム特集」でフィンランドの映画監督マイキ・カントーラさんが幼稚園児と制作したアニメ映画が上演されたことから、日本で子どもたちによる映画製作ができれば、と国内でナビゲーターを探しました。まだ小学校低学年の子どもたちによる映画製作と教育はまだ日本であまり見られなかったため、ワンダーアートプロダクションのアートプロデューサー高橋雅子さんが3月にフィンランドでの、マイキ・カントーラさんの活動を実際に視察し、正式にワークショップのナビゲーターをお願いしました。

6月にはふなばしアンデルセン公園子ども美術館が実施会場として決まり、8月には社員ボランティアを社内イントラネットで募りました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPOワンダーアートプロダクション、ふなばしアンデルセン公園子ども美術館

プロジェクト開始時期：2006年3月

開催場所：ふなばしアンデルセン公園子ども美術館

開催日：2006年10月21日、22日

参加者：会場近郊の小学生29名、コスモ石油の社員ボランティア8名

参加児童の声

- はじめてだったからたのしかった。家でもやってみよう。まつの木やセリフのやくになれてうれしかったよ。いろんなことをおしえてくれてありがとう。
- 松の木を見た時、枝のつき方に気がついた。ふしぎなつき方でももしろかった。さつえいの仕方とむずかしい仕事の手順がよくわかった。大変なんだけど、とても楽しかった。

参加児童の保護者の声

- 外で絵を描いたり、散歩したり、自然のものを使って作品を作ったり、とても楽しかったと良い経験をすることができました。
- 子どもたちは、友達も含め、スタッフの方々やもちろん先生とも、いろいろな交流ができたことが一番だったように思います。
- 子どもが親と離れて、全く知らない友達とふれ合えて良かったと思います。

みんなに会えて、一緒に活動できて嬉しかったです。私には日本に新しく29名の友達ができました。ありがとう！  
(マイキ・カントーラ)



2003~  
クリスマスカードプロジェクト

「自然アートワークショップ」に参加した子どもたちと社員が、入院中の子どもたちにメッセージを送って励ますプロジェクト。

「自然アートワークショップ」で制作したアニメーションをグリーティングカードにし、長期入院中の子どもたちにプレゼントしています。2006年度は、15の病院にクリスマスカードをプレゼントしました。自然アートワークショップに参加した児童と社員ボランティアが、カードに楽しい絵とクリスマスや励ましのメッセージを添えました。

参加児童の保護者の声

- 長く入院されているお子様達に、少しでも外の様子を伝えてさしあげたい。早く元気になって、遊びたい。と思っていただけただけです。うれしいです。どんなところにも、子どもは明日への力があるから応援したいです。
- 昨年、お返事を送ってくださった方がいて、子どもたちも喜んでいました。そのことで、子どもといろいろ話ができ良かったです。
- 「院内で過ごす子どもたちに喜んでもらえるように心を込めて書こうね」と親子で話しています。



各病院へ直接、お届けしました



社員の声

会社で主催している意味は大きい。社員のマインドも、会社も変わっていきます。 奥泉裕美子

「わくわく探検隊」はリピーターも多く、参加する子どもたちの間にも、社員ボランティアと子どもたちの間にも、そこしか存在し得ない独特の空気があると思います。こういった活動を会社が続けていくことで、参加する社員のマインドはももちろんのこと、活動に送り出す職場のマインドが変わっていくと思います。

その緊張感の一方で、会社が主催している活動なら、活動そのものに対して安心感があって参加しやすい、参加する前から他のメンバーに仲間意識を持つことができるといったプラスの面もたくさんあることに気がつきました。わくわく探検隊の事前研修に参加した時、初めは不安でいっぱいでしたが、経験を積んだ社員ボランティアたちが暖かく迎えてくれたおかげで、本番に向けた気持ちを作っていくことができました。

学生の声



学生の頃から障がい者キャンプに参加していて、ボランティア活動には馴染みがありました。昨年、わくわく探検隊に初めて参加しましたが、会社の活動に参加するということは、個人として参加していたときは異なり、会社の看板を背負っているという緊張感を伴うものでした。

## 2003~ コスモ絵かきっず

楽しく遊びながら、子どもたちに元気になってもらいたい！  
 養護施設の児童を対象としたコミュニケーション・プログラムです。  
 社員ボランティアが中心になって、推進しています。

家庭内暴力などにより、保護者がありながら児童養護施設で暮らす子どもたちが急増しており、東京都だけで3,000名以上に上っています。コスモ石油はこうした子どもたちを元気づけるため、アートセラピーを導入したオリジナルのプログラム「コスモ絵かきっず」を実施しています。これは、アーティストや専門家からアドバイスを受けながら、施設の子どもたちと社員ボランティアが一体になって作品を作り上げていくプログラムです。2006年度は、4月に「春のガーデニング」を開催し、施設内でのハーブガーデン作りや、春夏に向けた花壇の植え替えを行いました。8月には、アーティストMAYA MAXXさんをナビゲーターとして、「自分の好きなもの」を表現する夏休みワークショップを実施しました。また、12月には「クリスマスアレンジメント・ワークショップ」を開催し、フラワーアレンジメントの資格を持つ社員1名と社員ボランティア8名が、都内の児童養護施設の子どもたちと、約3時間にわたって難度の高い作品を作り上げました。



MAYA MAXX  
ワークショップ

クリスマスアレンジメント・ワークショップ



春のガーデニング

### ●実施までのプロセス●

2004年度から始めたこの活動も3年目となり、施設の先生に次年度の継続についてご要望をお聞きし、どのような年間プログラムにするのかという意見交換をするところから始まりました。子どもにとってアートや自然と向き合うことが自信の回復と可能性の拡大につながるのご意見から、2006年度も同じ施設での継続が決まりました。  
 春は昨秋に続いてガーデニングを行い、クリスマスは社員講師がクリスマスアレンジメントを行うなど、季節に即したプログラムを心がけ、その都度社員ボランティアが集まって子どもたちとコミュニケーションを深めながらプログラム遂行のお手伝いをしました。

### ●実施概要●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPOワンダーアートプロダクション、NPO日本コミュニティーガーデニング協会  
 プロジェクト開始時期：随時  
 開催場所：東京都内の児童養護施設  
 開催日：2006年4月15日「春のガーデニング」  
 （社員ボランティア：7名）  
 8月3日「MAYA MAXX ワークショップ」  
 （社員ボランティア：7名）  
 12月9日「クリスマスアレンジメント・ワークショップ」  
 （社員ボランティア：9名）  
 参加者：養護施設の児童、コスモ石油のボランティア延べ23名



5つのNPOの方々から活動の目的や内容についてビデオやスライドで説明を受けました



各NPOの活動先を訪問し、実際の活動を取材しました



2006年3月に横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校で実施した「ユース・フィランソロピー発表会」の様子

## 2005~ ユース・フィランソロピー

小学生の社会貢献マインドを育成するプログラムです。

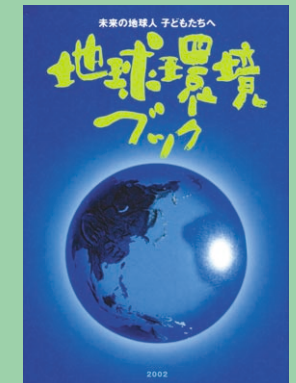
健全な社会作りに向けて、自分の意志や発想で社会貢献が行える子どもたちを育成するプログラムです。プログラムをスタートした2005年度は、小学4年生の児童がグループに分かれ、福祉や環境をテーマにした5つのNPOの体験・取材を行い、助け合い活動の必要性について学び、同年の児童全員と保護者を対象として発表会を実施しました。2006年度は、インディアナ大学フィランソロピーセンターとの協働により「ユース・フィランソロピー」の先進国である米国のさまざまな先駆的事例を印刷物にしました。2007年度は、これを必要とされる日本全国の学校や教育関係者に紹介していきます。

## 2002~ 小学生向け環境副読本「地球環境ブック」

地球環境を守るために活動している人々のメッセージを伝える本です。

小学生を対象に制作した「地球環境ブック」を2002年に発行し、希望者に無料で配布しています。  
 （教育関係者に限定、送料はご負担いただいています）

お申し込みアドレス  
[www.cosmo-oil.co.jp/phil/earthbook/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/phil/earthbook/index.html)



## 2003~ Webコスモ子ども地球塾 エコネッツ

地球環境を守るためにどうすれば良いかを一緒に考える環境教育Webサイトです。

小学校の総合的な学習の時間に役立てていただくことを目的に、2003年度に立ち上げたWebサイトです。環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、環境教育に役立つ情報や、実際に参加できる活動の紹介などを行っています。

[www2.cosmo-oil.co.jp/econets/](http://www2.cosmo-oil.co.jp/econets/)



### 社員の声

会社に、「ボランティア活動をする」という気持ちの余裕があるのは良いと思います。 丁子香織

自然アートワークショップでは、子どもたちの反応が面白く、こちらがタジタジになる場面もありました。会社が主催している活動ですが、また上司も、ほとんど行つてくたさい」という感じなので、非常に参加しやすいです。こういう活動を会社が主催しているということに、社員として誇りを感じます。仕事だけじゃない、社会貢献のための場所や時間、気持ちの余裕のある会社は、仕事だけの会社よりも一歩二歩先を行っていると思います。

昨日の6月に、先輩から誘われて絵かきっずに参加しました。もともと美術や音楽が好きなので、久しぶりに絵を描いてみるのも良いかな、と思ったのです。実際は、絵を描くというよりも、子どもたちのお世話をやる、という感じでしたけれど、「絵かきっず」は、養護施設の子どもたちを対象にしている活動なので、最初はちょっとヘビーかな？とも思いましたが、素直な気持ちで接すれば、自分も満たされるし、一緒に楽しめる」ということが分かりました。



2006~

# パパとキッズのアートプログラム

~ 世界でたった1つの絵本 ~

父子のコミュニケーションを応援し、父親の育児参加マインドを醸成するプログラムを全国的にスタートしました。

父子がコミュニケーションを楽しみながら参加できるワークショップ「パパとキッズのアートプログラム ~ 世界でたった1つの絵本 ~」を、コスモ石油の支店所在地で、全国的に展開しています。アーティストのMAYA MAXX(マヤ マックス)さんをナビゲーターとし、社員ボランティアがプログラムの運営を行います。このプログラムでは、お父さんが子どもだった頃のエピソードを語り、それをもとに子どもたちがイメージをふくらませ、絵にしていきます。少子化が進む中で、お父さんたちに、子どもたちとコミュニケーションを楽しみながら、育児参加のきっかけやマインドを醸成することを目的としています。2006年は3月の東京を皮切りに、5月・大阪、10月・札幌、福岡で開催しました。2007年は3月・仙台、5月・高松、6月・広島、7月・名古屋で開催を予定しています。最終的に、全国で描きあがった絵をMAYA MAXXさん監修のもと、「世界でたった1つの絵本」に仕上げます。

### ● 実施までのプロセス ●

少子化の原因の1つと言われる「父親の育児不参加」を解消するきっかけとなるような、父と子がコミュニケーションを深めるプログラムを実施したいと思っていたこと、家族のいる男性社員から、休日はボランティア活動に参加してほしいとの声があったことから、その両方の条件を満たす活動を開催できないかと2005年の秋頃から模索しました。

12月には、これまで実施した子どもを対象としたプログラムのパートナーであるワンダーアートプロダクションから、コミュニケーションを大切にアーティストMAYA MAXX(マヤ・マックス)さんとのワークショップをご提案いただき、父と子が共有できるものということから、「パパも昔は子どもだった」をテーマに掲げ、アートとコミュニケーションを楽しんでいただくことにしました。

また、参加者からいただく参加費を500円と決め、当社も同額をマッチングし、その全額を難病で長期入院する子どもの家族が滞るファミリーハウス運営を支援するNPOファミリーハウスに寄付することに決めました。

差し迫った2006年1月に三鷹市芸術文化センターでの実施が決まり、参加親子を公募したところ、あっという間に30組近くの応募者が集まりました。三鷹市で実施したプログラムに参加したお父様方からかなり好評であったことから、全国の当社支店所在地で展開する運びとなり、各地の公共施設に会場のご提供をいただきました。

### ● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー:

コスモ石油、NPO ワンダーアートプロダクション、財団法人 三鷹市芸術文化振興財団・三鷹市美術ギャラリー、国立民族学博物館、北海道立近代美術館、福岡市文化芸術振興財団

プロジェクト開始時期:

2005年10月

開催場所:

コスモ石油の事業所所在地

開催日:

2006年3月・東京、5月・大阪、10月・札幌、福岡

参加者:

小学1~4年生の児童とその父親

(東京:20組、大阪:20組、札幌:16組、福岡:15組)

コスモ石油のボランティア延べ8名



MAYA MAXX

東京会場



大阪会場



札幌会場



福岡会場

### 参加したお父さんたちの声

- 子どもと楽しい一日を過ごすことができました。そして、一緒に絵を描くことは難しかったのですが、長い時間を子どもと二人でいられたことは良い時間でした。
- 日ごろ、子どもとは良く話をしていると思っていましたが、ほとんど話せていないことに気づきました。これからはもっといろんな話をしたいと思います。
- 子どもが生き生きとして、絵を描く姿を見るのは初めてだったので、新鮮な気持ちでした。子どものことが、あらためて好きになった気がします。

社員の声

社員も、子どもたちも成長できる。社会貢献は、利益の上手な社会還元方法。

池田智明



初めて参加した活動は、研究所時代の先輩に誘われて参加した2003年の「自然アートワークショップ」でした。活動へ参加する前は、ボランティアアッテ自分参加しても大丈夫だろうかと思っていましたが、いざ活動に参加してみたら、その思いは、ボランティア活動は緊張せず自然体で参加すれば良いに変わりました。これがきっかけとなり、これ以後の

日帰りの活動には、できるだけ参加することになっています。それでも以前から熱心に誘われていた「わくわく探検隊」は、研修も含めて6日ばかりで少しハードルが高いため参加を躊躇していました。しかし昨年、意を決して裏方の本部スタッフとして参加したのですが、ドラム缶風呂を沸かすために全員で協力してバケツリレーをしたり、手で火を起こしたり等、自然環

境だけでなくチームワークの重要性等、子どもたちとともに様々なことを学ぶことができたので参加して良かったと思います。会社は社会を構成する顧客あつてのものなので、社会貢献活動を通じて社会に会社の利益を還元することは、とても良いことではないでしょうか。社会貢献活動は、参加してくれる子どもたちだけでなく社員スタッフも人間的

に成長させてくれると思います。特に子どもたちは私たちの活動を通じて一人では解決が難しい課題もみんなで力を合わせれば上手くクリアできることを学んで欲しいです。それを学んだ子どもたちが成長すれば、今後の社会においては日本が今まで以上に良い環境になるのではないかと思います。



「パパとキッズのアートプログラム」の参加者の皆様からいただいた参加費(1組500円)に当社からも同額を付加し、NPOファミリーハウスに寄付しています。寄付金は、ファミリーハウス利用者のための絵本購入に充てられています。

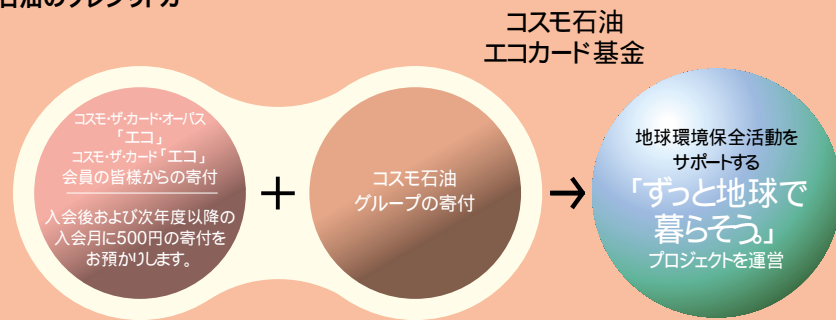


## コスモ石油 エコカード基金による活動

お客様とコスモ石油が、  
一緒になって進めている活動です。  
その仕組みや活動テーマについて、ご説明します。

私たちの暮らしにはガソリンなどの石油製品は欠かせませんが、一方で、製品をつくる時、そしてお客様がご使用になるときに環境に負荷をかけていることも事実です。そこで、コスモ石油では、お客様と一緒に環境保全に取り組むことはできないだろうかと考え、「コスモ石油エコカード基金」を設立。コスモ石油のクレジットカード(コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード「エコ」)会員のお客様からお預かりした寄付金と、コスモ石油グループの売上の一部などをもとに、NPOやNGO、公益法人などのパートナーとともに、地域社会や政府の方々の協力を得て、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを推進しています。2007年3月、会員数は85,000名に達しています。

お客様と一緒に、  
環境保全活動を支援する仕組み。

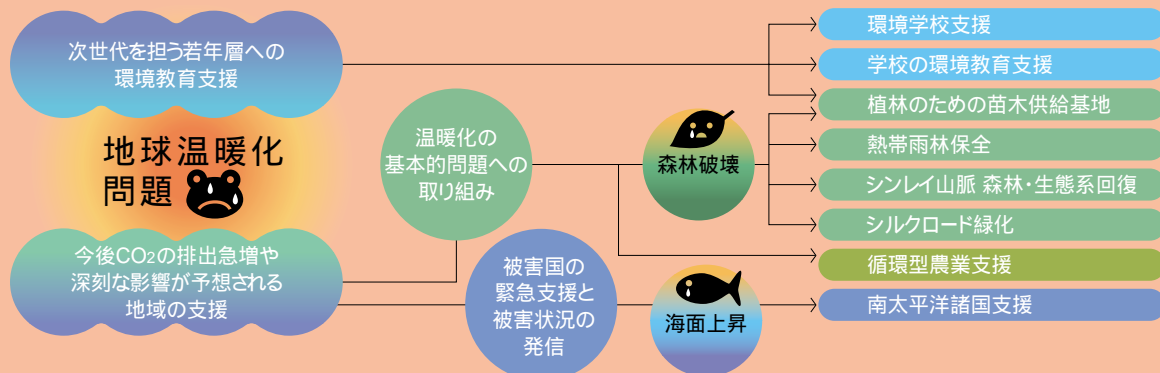


石油と関わりが深い「地球温暖化問題」をテーマに、今後CO<sub>2</sub>の排出急増が予想される途上国を支援するプロジェクトを展開しています。途上国の環境問題は、食料不足が引き起こす貧困問題や、人口増加などと密接な関係があります。私たちは、現地の状況を良く知っているプロジェクトパートナーと活動内容を考え、現地の人たちと何度も話し合い、プロジェクトをつくりあげています。

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト  
今後CO<sub>2</sub>の排出急増や  
深刻な影響が予想される  
地域の支援

### 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 次代を担う若年層への 環境教育支援

日本国内では、次世代を担う子どもたちの環境教育支援に力を入れています。環境教育プログラムの提供のほか、学校での環境教育の普及・定着に向けた支援活動も行っています。また、多くの方々から環境保全について考えるきっかけとなるよう、プロジェクトの活動内容をWebでお伝えするなど、情報発信も積極的に行っています。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの詳細は、[www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html)

### 今後CO<sub>2</sub>の排出急増や深刻な影響が予想される地域の支援

#### 2001~ 熱帯雨林保全 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
バブアニューギニア / OISCA  
ソロモン諸島 / APSD

CO<sub>2</sub>の吸収源である熱帯雨林を保全するため、その第一歩として、森林への負担をかけない定地での循環型農業の普及を支援しています。



#### 2002~ 循環型農業支援 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
フィリピン / NPO2050

キャッサバの葉を再利用する循環型農業を軸に、地域の持続的な発展を支援しています。



#### 2002~ 南太平洋諸国支援 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
キリバス共和国 / APSD, ISME  
ツバル国 / Tuvalu Overview

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する島嶼(とうしょ)国を支援しています。



#### 2005~ シンレイ 秦嶺山脈 森林・生態系回復 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
中国 / 西北大学

森林を分断する林道跡に植林し、絶滅危惧種キンシコウなど、野生動物の生息環境改善に取り組んでいます。



#### 2002~ シルクロード緑化 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
中国 / NPO2050

砂漠化の進行防止を目指して、地域住民や地元政府とともに、シルクロード黄土(オウド)高原の植林を推進しています。



#### 2006~ 植林のための 苗木供給基地 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
北海道 / LLP 富良野種まき塾

“ココロと大地に種をまく”をスローガンに、自然林の回復活動を通じ、環境教育に取り組んでいます。



### 次代を担う若年層への環境教育支援

#### 2002~ 学校の 環境教育支援 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
北海道、長野、千葉、東京、三重、広島、鹿児島 /  
日本環境教育フォーラム

総合的な学習の時間に環境教育プログラムを提供するなど、学校での環境教育を支援しています。



#### 2003~ 環境学校支援 プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]  
富士山、佐渡、小笠原 /  
セブンサミッツ持続社会機構

環境問題と社会問題を、同時に体験・勉強することで、環境保全に向けて自ら行動できる子どもたちの育成を目指しています。



#### 2005~ 参加型 総合学習・ 環境教育サイト EEkids

[プロジェクトパートナー] 環境goo

環境gooの中に、参加型の環境教育サイト「EEkids」を立ち上げました。ブログを使って学校やグループの活動の発表が行えます。

<http://eco.goo.ne.jp/education/eekids/>







## 環境メッセージの発信

多くの方が環境について考え、行動していただけるよう呼びかけています。

環境保全に取り組む仲間を増やすためには、積極的に情報を発信していくことが重要です。コスモ石油は、環境をテーマにしたイベントや出版物を通じて、多くの方が環境について考える機会を提供しています。



## コスモ アースコンシャス アクト

全国FMラジオ局とのパートナーシップで、全世界の人々に環境保全を呼びかけています。

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38局がパートナーシップを組んで、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ～」をテーマに、地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動です。「私たちひとりひとりが地球のためにできることから行動を起こそう」という気持ちを形にする事を目的に、以下のような活動を行っています。

詳しい情報は<http://www.tfm.co.jp/earth/>

1995~

## アースデー・コンサート

音楽を通じて、地球環境への熱いメッセージを伝えるコンサートです。毎年4月22日の「世界アースデー」に開催しています。2006年は、倉木麻衣さんを迎えるとともに、ケニアの副環境相でノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏のメッセージを放映するなど、「地球への愛のリレー」をテーマに、日本武道館から世界に向けて、地球環境への思いを発信しました。



2001~

## ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」

パーソナリティに石川 實さんを起用。毎朝日本各地から、その地域で最も旬で、話題でもある「自然環境保護をしていきたい場所」「その地域の身近な環境活動」などのトピックをJFN各局のレポーターが生中継でTOKYO FMをはじめ、JFN38局ネットでオンエアしています(毎週月曜～金曜6:40～6:45)。さらに、2006年1月より定時ラジオ放送だけでなく、好きな時間に番組を聴けるポッドキャスト配信を開始しました。

QRコードで、番組をご試聴いただけます。機種によって試聴できない場合がございます。



2006年12月26日(火)  
オンエア分  
放送局: K-MIX  
レポーター: 河村由美

2002~

## 野口 健 講演会

ヒマラヤや富士山における清掃活動をはじめ、国内の希少自然保全活動や環境教育といった分野で活躍されているアルピニスト野口健さんの講演会を全国各地で開催しています。野口さんの波乱万丈な生い立ちからエベレスト登頂までのエピソードを交えながら、現在の活動や体験を通して、環境保全の重要性についてアピールしています。



講演会の音声(約4分)



2001~

## クリーン・キャンペーン

2001年4月より、全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然と楽しみながら清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」を展開しています。これまでの5年間で242カ所にて清掃活動を実施。延べ91,619人の方々にご参加いただき、1,833,772リットルを超えるゴミを回収しました。また、8月19～20日には、シンボリックなイベントとして「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を開催し、富士山の清掃活動とエコトレッキングを行いました。



コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン 2006年度実績

実施日	開催地	参加人数	ゴミの量
5月 5/28(日)	福岡	381	2,655
6月 6/3(土)	沖縄	1,746	58,680
6/28(日)	神戸	562	7,350
7月 7/1(土)	秋田	456	7,560
7/2(日)	北海道	372	32,625
7/8(土)	福島	380	5,700
7/8(土)	新潟	312	19,350
7/8(土)	青森	107	2,025
7/15(土)	栃木	258	2,565
7/22(土)	東京	473	4,500
8月 8/5(土)	愛知	224	1,890
8/5(土)	富山	302	12,870
8/6(日)	宮崎	273	4,770
8/16(水)	熊本	168	2,115
8/19～20(土・日)	富士山	193	28,350
8/20(日)	石川	320	6,615
8/27(土)	福井	382	9,810
9月 9/3(日)	佐賀	379	11,115
9/10(日)	三重	347	7,065
9/10(日)	長崎	443	13,365
9/17(日)	宮城	197	5,535
9/24(日)	長野	367	9,720
9/30(土)	山口	287	9,360
9/30(土)	高知	174	2,115
10月 10/8(日)	岩手	57	1,755
10/14(土)	山形	158	4,320
10/14(土)	群馬	332	4,905
10/21(土)	徳島	232	6,615
10/22(日)	静岡	336	14,040
10/22(日)	香川	365	7,875
10/22(日)	大分	271	9,900
10/28(土)	岐阜	15	315
10/28(土)	滋賀	41	1,260
10/28(土)	大阪	216	2,475
10/28(土)	島根	212	16,920
10/29(日)	愛媛	334	8,550
11月 11/4(土)	岡山	314	2,340
11/18(土)	鹿児島	188	12,825
11/19(日)	広島	281	12,915
計	39カ所	12,455人	374,715ℓ

2003~

## コスモ石油 Voice of the earth

「人」と「自然」の内なる声に耳を傾けることをテーマにしたコンサートです。

多くの人に良質な文化芸術に触れる機会を提供すると同時に、コンサートに参加されるアーティストや来場者の方に、コスモ石油の環境への取り組み姿勢を認知・理解していただくための活動です。2007年3月に開催した「Voice of the earth 2007」は「The way to nature」をテーマに、尺八奏者の藤原道山さんをメインとし、共演者にピアノの妹尾武さんと鈴木理恵子ストリングスを迎え、新たな音風景をお届けしました。



2004~

## インターネットムービー&DVD 「野口 健 小笠原環境学校」

野口健さんと一緒に取り組む環境学校の活動をドキュメンタリームービーで紹介しています。

皆様に環境活動に関心をもっていただき、コスモ石油エコカード基金の活動にご理解を深めていただくよう、2004年度小笠原環境学校の記録映像をもとにドキュメンタリームービーを制作し、インターネットで配信しています。また、ホームページ上ではこの作品が収録されたDVDを無料で配布しています。

<http://cosmo-oil2.netcinema.tv/>



2004~

## 環境文化誌「TERRE」

身近な環境問題をテーマに、環境について考える本です。

「TERRE(テール)」とは、フランス語で「大地」「地球」の意味。「人を通して環境を考え、環境を通して人を見つめる」というコンセプトのもと、過去の人や現代の人の偉大な生き方や考え方を「環境」という切り口で解きほぐし、多角的に深く掘り下げていく広報誌です。





## 芸術・文化活動支援

心豊かな文化的社会づくりに向けて、芸術・文化活動を支援しています。コスモ石油の社員も参加し、活動を支援します。

### 1997~ 「子どものためのミュージカル」協賛

2006年は8月に開催しました。東京都と埼玉県の公演に、周辺の児童養護施設や母子生活支援施設の方々を招待しました。



### 2003~ NPOグローヴィル音楽活動支援

先駆的音楽の普及と人材育成を目的としたNPOグローヴィルが主催するコンサートに協賛しています。2006年は、IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)のチームが来日し、ワークショップとコンサートを12月に開催しました。



### 2006~ 大阪ヨーロッパ映画祭「キダーフィルム特集」協賛

健全な次世代育成支援の一助として、協賛しました。ヨーロッパの子どもたちが製作した映像作品を楽しむ機会を日本の子どもたちに提供することで文化交流を図るとともに、子どもたちの自主性と創造力を育むことを目的とした映画祭です。



### 2005~ 「美術館へ行こう ~ A Day in the Museum ~」協賛

NPO美術ファンクラブの「美術館へ行こう ~ A Day in the Museum ~」に協賛しています。美術館への入館体験を増やし、すばらしい作品の存在を多くの方に知っていただくためのプログラムで、2007年1月2日、国立西洋美術館・東京国立近代美術館・ボラ美術館の入館を無料としました。



### 2006~ 芸術家のくすり箱ヘルスセミナー協賛

芸術家のくすり箱が開催する、俳優・音楽家・ダンサーなど芸術家のためのケアを講座やワークショップで紹介するヘルスセミナーに協賛しています。

### その他の活動(随時)

献血への協力  
使用済み切手、プリペイドカードの回収とNPOへの寄付  
中古CD、ゲームソフトの回収とNPOへの寄付  
外国コイン、紙幣の回収とNPOへの寄付  
書き損じハガキの回収とNPOへの寄付  
各種パザーへの献品協力  
みなとネット、CCネットなど他社との合同イベントの実施、協力

コスモ石油の社会貢献活動について、識者の方からご意見をいただきました。

成功する企業とそうでない企業、その違いはどこから来るのか 昨年こんな課題を元に大学のCSR調査プロジェクトに関わってきましたが、最近になって、コスモ石油の社会貢献活動の意義を強く印象づけられた調査に出会いました。

その調査自体は米国のあるビジネス・スクールの先生によるものですが彼の答えは経営能力や実務経験に関係するものでなく、「人」という意外な程の基本的なものでした。どんなにビジネスに関する知識や経験の豊かなCEOや社員が集まろうと、どんな斬新なビジネスプランがあろうと、皆が「人」として育っていないと、最終的には組織として上手くいかない。

もう少し具体的な例を出すと、「トップから新人にいたるまで企業に在るあらゆる人たちが、顧客から始まり広く社会の色々な人実際に触れ、話をし、その声に耳を傾ける」という事。そこから将来の社会的ニーズと新たなビジネス・アイデアが発掘できるし、同時に、常に社会から学ぶという姿勢に繋がる。

結果、特に成功してきた企業や人間が陥りがちな「過度の自信」が増長されることを避け、社会の現実を「客観的に見る目」や、社会の大きな変化に対応できる「柔軟な姿勢」を養うことができる。逆に言うと、「柔軟性と客観性の欠如」と「積み重ねられた過度の自信」こそが、ともすると倒産に至る程の経営の大失敗に繋がるのだと。そして、企業はまさに人の集まりなので、社員全員にこの姿勢が育まれていないと、結局その組織は上手くいかないんだと。

これ自体は「当たり前だなあ」と感じられる方も多くいらっしゃると思いますが、実は多くの企業がそれを当たり前と思っているから、現実には実行されていないそうです。

このお話を伺った時、コスモ石油の社会貢献活動は、いつも「人」と「人」の出会いと結びつきが基本になっていることを思い出しました。1993年以来、「コスモわくわく探検隊」から始めて、最近の「パパとキッズのアートプログラム」に至るまで、時にはキャンプ、時にはアート、そして時にはクリスマスカードと、繋げる媒体は変化しますが、基本はいつも「人」でした。

そして、そこにはいつも社員ボランティアがいました。現在、米国の企業でも、社員ボランティアを推奨する所は急激に増えています。でもボランティア・コーディネイト自体とても大変ですし、ましてや自分の仕事がある社員に参加を促すことは、企業として非常

## よい企業、よい人とは何か 企業の社会貢献がもたらす価値

に大変なんですね。だから、継続しきれないところも少なくない。そうした「手間のかかる」ボランティア・コーディネイトは、企業ブランドを全面的に出せる大掛かりなスポンサーシップ・イベントにくらべると、とっても地味なイメージもあるから、始めてみただけ見返りがすぐに見えなくて、やめてしまうところもある。でも、コスモ石油はもう10年以上、ずっと続けてこられていました。それにはどういう意味があるのでしょうか。

それは企業として、「人」の大切さが経営理念の中に深く培われていたからだと思います。社員の方々が自分の子ども以外に、様々な状況に置かれている色々な子どもたちと出会うことで、社内で働いているだけでは触れ

ることのない社会の側面を知り、社会に置かれる会社と自分の役割や責任を認識できる。こうした体験によって学ぶ内容は、単に本や新聞で読むのとは比べ物にならない、かけがえのないものです。

企業のあらゆる担当、部署の人たちが社会と直に触れ、客観的な目を養うことは、結果、企業全体の力にもなっています。

でも、社員のボランティア体験は、企業のため、社会のためだけでしょうか？ 実はご自身への貢献活動にもなるんです。というのは、社会貢献活動は自分たちの中に秘められていて、でも普段の仕事では気づかない能力に気づかせてくれるからです。「コスモわくわく探検隊」や「コスモ子ども地球塾」で、交通遺児である子どもたちと一緒に過ごすその時間が、かれらにとってもどれだけ感動できる貴重なひと時であるか。別に高額の寄附をすることだけがフィランソロビー(社会貢献)ではありません。むしろ方法にとらわれず、できる範囲でも社会貢献活動に参加してしまし

よう。そうすれば、一人一人の社員の方々の中に、人を感動させ、仕事以外にも社会に役立つ大きな力を秘めているという事実を知ることができよう。

今年度からは、「ボランティア休暇制度」も導入されると伺いました。コスモ石油の社会貢献活動が「人」の創造に向けて、次々と発展している現実をとっても頼もしく思います。また社員の方々の社会での経験を単にボランティア参加で終えるのではなく、そこで体験された内容を是非、様々な部署の社員でシェアし、その体験から何が学べるか、どう自分たちの仕事に生かしていけるのか話し合える機会を大切にさせていただきたいと思っています。

### 大西たまき

Onishi Tamaki  
インディアナ大学フィランソロビー・センター研究員・日米事業プロジェクト・ディレクター

コロンビア大学院芸術経営学科修了。自動車会社勤務後渡米。オルフェウス室内管弦楽団財務部、カーネギーホール企業スポンサーシップ部を経て、1999年から2004年、全米公共テレビ放送PBSニューヨーク局資金調達部に勤務し大口寄付者を担当する。現在、ファンドレイザー協会より日系ファンドレイザー調査を実施。ブランド・ギビングや地域開発の社会支援・投資手法調査、フィランソロビー教育等、新たなフィランソロビック・マーケットの拡大に力を注ぐ。購買新聞「海外の文化」他で米国の芸術界やNPO、社会起業に関し定期執筆。





2007年3月発行

 **コスモ石油株式会社**

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル  
 TEL.03-3798-3211(代表) <http://www.cosmo-oil.co.jp/>



この社会貢献活動レポートの用紙は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。印刷インクには大豆油インクを使用することで環境負荷の低減を図っています。